

大勝館の活動写真と中村歌扇

土 田 牧 子
つち だ まき こ

はじめに

大勝館は、浅草公園六区にあった映画館（以下、活動写真小屋の意を含む）で、梅屋庄吉（一八七三～一九三四）創業のMパター商会との契約で興行を始めた^①。本稿では、『都新聞』を主な資料として、この大勝館とその隣に位置した記念大勝館（旭館→記念大勝館）における上映の実態を明らかにし、日本映画の黎明期を支えた浅草六区の一事例を示すことを第一の目的とする。調査範囲は、大勝館で初めてMパター制作の作品が上映された明治四一（一九〇八）年九月から大勝館が日活のフラッグシップ館となる大正元（一九一二年）九月までの四年間である。

次に、その一事例から臚気に見えてくる中村歌扇（一八八九～一九三四）の動向にも着目したい。中村歌扇は、初期の活動写真で活躍した女優者（歌舞伎を本業とした女性の俳優で、男性と同様の演技様式を身につけて歌舞伎を演じたプロの俳優^②）として、映画史に名を残す人物である。中村歌扇の出自や浅草の娘芝居時代の活躍については、拙稿「女優者、中村歌扇——浅草娘芝居時代を中心に——」（『共立女子大学文学部紀要』六八集（二〇二二）所収）（以下、「土田…二〇二二」とする）で触れたが、その後、彼女が出演した活動写真に関しては断片的にしかな知られていない。そこで、大勝館の実態から中村歌扇の活動写真出演状況を探ることを本稿の第二の目的としたい。情報が非常に限られているのでその全貌の解明には遠く及ばないが、可能な範囲で出演作品を特定し、他の作品

への出演の可能性についても言及してみたい。

中村歌扇の養父でもある興行師の青江俊蔵が、自身の経営していた第一共盛館と第二共盛館を、それぞれ大勝館と旭館（のちに記念大勝館）という映画館にして、活動写真の興行を行ったことは「土田・二〇二一」でも述べた（三六ページ）。明治三〇年代、第一共盛館では「青木の玉乗り」が人気を博し、隣の第二共盛館では中村歌扇を座頭とする美園一座という娘芝居が呼物であったが、四〇年代初頭の活動写真ブームの波に押されて、他の多くの見世物小屋や劇場と同じようにこの二つの共盛館も映画館へと姿を変えた形である。大勝館は、明治四一（一九〇八）年七月に開場し、昭和四六（一九七二）年十月まで存続した^③。第二共盛館は、明治四二（一九〇九）年四月に旭館と改称し、当初は「幻芸」という珍しい芸態を見せたが、同年六月には第一共盛館の後を追って映画館となる。それから二か月後の明治四一年八月に記念大勝館と改称して再スタートを切るも、明治四三年夏に閉館する。

なお、一般的には、大勝館は大瀧勝三郎所有の映画館として知られる。大瀧勝三郎は二代目大勝と呼ばれた腕利きの鬻職人で、浅草花屋敷の持ち主となつて浅草の興行界でも重きをなしていた。ただ、実態としては、「大勝の——筆者注）其のまた番頭をして居る青江俊蔵といふのが諸興行ものを切て廻してゐる」（朝日1901/04/06）ということだったらしい。小屋主は大瀧勝三郎だが、事実上の経営は青江に任されていたと理解しておきたい。

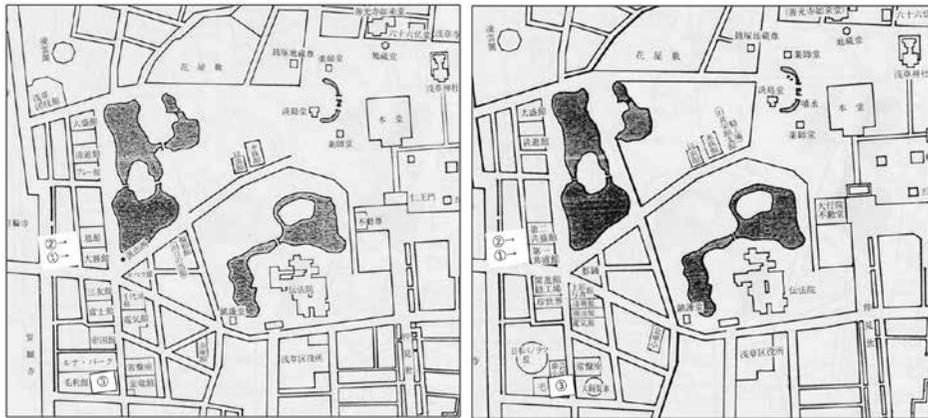


図1 浅草興行街の変遷：明治39年（左）と明治44年（右）

※①②で示したのが第一共盛館→大勝館および第二共盛館→旭館（のちの記念大勝館）、③はのちにパテー館ができる場所である（台東区教育委員会編『浅草六区：興行と街の移り変り』（台東区文化財調査報告書 第5集）台東区教育委員会1987、64・66ページより）。

旭館開館前の大勝館——明治四二年九月〜明治四三年三月

大勝館は明治四一年七月の開業時からMパター商会と契約を結んだ。七月一三日に開場するが、最初は西洋から輸入した映像を主に見せていたようだ。その他に「宙乗り」「天女の舞」「十二色変化」(朝日1908/07/16)、「独特の彩色電気の牡丹花を舞台一面に敷き列べ其上で三美人が羽衣姿に胡蝶の戯れを演るなどは何處までも浅草式」(読売1908/08/30)といった余興をやって、観客の目を引いていた。

Mパター商会制作の最初の作品は、明治四一年九月三〇日から上映された『曾我兄弟狩場の曙』である。これに出演したのが、当時はまだ第二共盛館で娘芝居を上演していた中村歌扇(当時一九歳)であった。歌扇が十郎を演じ、同じ一座の雛子が五郎、歌江が仁田四郎を演じたと伝えられる(図2)。この作品については「土田…二〇二二」(三六〜三七ページ)で述べたので詳細は割愛するが、当時の浅草の活動写真界について『都新聞』は次のように伝える(傍線部—土田、以下同)。

活動写真は今が全盛期、浅草公園の観覧物^{みせもの}は大概之に押れて仕舞つて太神楽も玉乗りも顔色なし 軒並の活動を順に覗いて見て第一に感ずるのは 一頃非常に人気ものであつた魔術ものが既に倦きられて演劇ものが歓迎されて居ることで、夫も悲劇種では西洋風俗が一寸日本人

大勝館の活動写真と中村歌扇



図2 『曾我兄弟狩場の曙』の一場面

(『活動写真雑誌』第1巻4号 口絵写真(『日本映画初期資料集成復刻版2』三一書房)より)

に会得し兼るのと時代劇では頭で解らぬので、日本演劇を頼りに持込んで居る、先づ三友館は右団次、右之助親子の石橋の所作を長唄囃子入りで、電気館は右団次の橋弁慶是は義太夫入り、富士館は故団菊五郎の紅葉狩を長唄囃子入りで映写して居る、然し今のところは何れも所作に属するもので、此前東京で舞台に掛けた鈴ヶ森や忠五のやうなものは見えぬ (都 1908/09/25)

当時は、歌舞伎役者による所作事(舞踊)を長唄囃子や義太夫節入りで見せる活動写真が人気を呼んでいたことが分かる(九代目團十郎と五代目菊五郎の『紅葉狩』も含む)。そして所作(舞踊)ばかりが上映される理由についてこの記事は次のように続ける。

原画を作る俳優が活動写真的舞台の呼吸が充分に呑込めぬので、演劇を離れた演劇、言ひ換へて云へば活動的世話とも云ふ一種特別の表情が出来ぬので所作以外のヒルムが映せぬのだ。若しパテエ会社の様に此専門の俳優を養成して原画を作れば市井の出来事や新聞の雑報にて充分写真の種になる事が沢山ある (都 1908/09/25)

歌扇率いる美園一座は活動写真専門ではなく、舞台上で歌舞伎を演じることを専業とする女役者の一座であったが、この後、Mパテエ会社の作品に数多く出演することになる。その過程で活動写真の俳優に必要な「一種特別の表情」を身に着けた可能性も指摘できよう。

以下、この『曾我兄弟狩場の曙』を出発点として、大勝館と記念大勝館(旭館)の上映作品を挙げながら、二館の動向を見ていくこととする。上映作品は原則として『都新聞』の「遊覧案内」に拠る。上映作品のリストは文末の表…大勝館・記念大勝館(旭館)上映作品一覧(稿)(以下、一覧表)に掲げる。本文の算用数字はこの一覧表の通し番号と対応している。また、中村歌扇の名が見られる箇所には傍線を引いた。新聞広告の引用年月日については一覧表を参照されたい。

『曾我兄弟狩場の曙』の広告は次のとおりである。「本月廿日撮影」とあるので九月二〇日に撮影したものを三〇日から上映していたことになり、ずいぶんな自転車操業である。自社で撮影した作品の他に「ビュチーダンス」(ビュチーダンス?)など西洋の短編映像を同時上映する方法は、当時の活動写真界ではよく見られる形だった。

1. パター特約活動大写真 浅草公園六区青木玉乗跡 大勝館 本月廿日撮影 囃子鳴物入御覧に供す
歌舞伎十八番『曾我兄弟狩家の曙』場面三段返し 女俳優美園中村歌扇 他数名出演
其他新着写真数種、余興ビュチーダンス及びブラックアート花輪の蝶 本館は一週間毎に写真差替へ

この上映に続き、一〇月後半には、米國艦隊の横浜来航の模様を伝えるフィルムを上映している(2・3)。この月、一八日から二五日まで米國艦隊が横浜港に寄港し、大きな話題を呼んでいたのである。また、それと同時に上映の形で引き続き『曾我兄弟夜討』三段返し(『曾我兄弟狩場の曙』を指す)のタイトルも見ることが出来る(2・3)。このようにメインの上映作品を新しいものに差替えて、古くなったものは「番外」などと位置付けて上映を続行する形は、この後も一貫してみることが出来る。

米國艦隊が去ると、大勝館はふたたび歌舞伎の活動写真を上映する。一月は『伽羅先代萩』(4・6)、二月は『繪本太功記』「尼ヶ崎の段」(7・8)、翌年一月は『碁盤忠信』「吉野山の場」(9・10)、二月には『壺阪靈験記』(11)、三月は『明烏夢淡雪』、三月後半には『佐倉宗五郎』(12)というラインナップで制作されている。多くの作品は一〇日ほどでメイン上映の役割を終えるが、その後も「番外」として上映が継続され、合計で一か月ほどの上映期間となっている。また、9・11には「ピオラマ」『雪月花』を上映している。「宮島実景」(10)という表現も見られるので実写の風景をバックに舞踊を見せたものかとも思われるが、詳細は不明である。13の「電気所作事『三つ面』」は、先述の「電気」の牡丹花を舞台一面に敷き列べ其上で三美人が羽衣姿に胡蝶の戯れを演る」といった類のものかもしれないが、やはり未詳。しかしいずれにせよ大勝館では、開館間もない時期から、所作事ではない歌舞伎作品の活動写真を精力的に制作し、余興にも電気仕掛けなどの工夫を凝らしていたことが分かる。

旭館の開館と横田商会との協力——明治四二年四月～七月

明治四二年四月一日、第二共盛館が旭館と名を変えて新築開場する。すると、ここでは「幻芸」あるいは「幻劇」、「実写活動」などと呼ばれた形態の上演を見せるようになった(本稿では「幻芸」の呼称で代表する)。これは、舞台一面に大きな鏡を貼り付け、奈落

で演技をする俳優たちを鏡で映し出して客席に見せるもので、原理は全く異なるものの「活動写真らしさ」を味わえる芸態であつたらしい。「幻芸」については「土田二〇二二」（三八〜四二ページ）で触れたが、上演作品に見落としがあつたので一覧表に加えて記載した（14、17、19、20、22）。「幻芸」は複数の新聞記事にも取り上げられ、注目を浴びたようだが、興行は二ヶ月足らずで活動写真にとつて代わられる。

六月半ばより旭館は「横田商会特約」を掲げる。実情はMパター商会と横田商会との共同興行という形だつたらしいが、この共同興行は旭館が記念大勝館と名を変えてからも継続する。横田商会特約の旭館でも大勝館の上映形態と大きく形が変わることはなく、歌舞伎をメインに据え、新作が出来る古い方は「番外」として格下げし、西洋物などの短編を添えるという形を基本としたようだ（24、25、27、29）。

一方、大勝館では明治四二年七月、『不如帰』（全十一場三千尺）を上映する（28）。これは、Mパターが制作した最初期の新派物の活動写真である（図3）。これにわずかに先駆けて、Mパター商会特約の文明館（麻布森本町）、第二文明館（牛込）でも「全十一場三



図3 明治四二年の大勝館（左手前）。看板に「不如帰 全十一場」と見える。

（編者不明『東京写真帖』出版年不明より）

千尺」と銘打った『不如帰』を上映しており、同一作品と考えられる。この『不如帰』は、Mパターの映画制作者であった岩藤思雪がカットバックの手法を初めて使った作品と言われる。⁷⁾この上映は、柳川春葉の『脚本 不如帰』(明治四二年二月 春陽堂刊)が刊行されたことで『不如帰』が大きなブームとなっていた時期とも重なり、大勝館ではこの時期から新派物の作品が目立つようになる。

記念大勝館の開館と新派物映画——明治四二年八月〜明治四三年七月

明治四二(一九〇九)年八月、旭館は記念大勝館と名を変え(八日開館)、「横田・パター合同写真」と銘打って宣伝を打つようになる。最初の作品は『影法師』だった(30)。都新聞に連載された伊原青々園による同名の小説を原作とし、二千五百尺とも三千尺とも報じられた長尺の新派映画である。『読売新聞』は次のように報じる。

子供芝居で名を得た浅草公園の旭館は此程活動写真專業となり 記念大勝館と改称した 目下の映画は新演劇「影法師」三千尺の大物と輸入滑稽画其他数種の多きに及び 毎日二回づ、開場して居る 此「影法師」は先月館主自ら役者を従へて箱根に赴き 同山の絶勝を応用して撮影し来たもので 同時に新演劇「川上行義」旧劇「靈験記」「伊賀越」等の長尺物を写し取つたが 余り上出来だから涼風の立つ頃まで取つて置くと云つて居る
(読売 1909/08/15)

ここで役者たちと一緒に箱根に赴いたという「館主」とは、おそらく青江俊蔵であろう。『影法師』と一緒に撮影したとして名が挙がっている『靈験記』(本名題『箱根靈験暨仇討』)は翌月に記念大勝館で上演され、広告に「箱根撮影」の宣伝文句を見ることができる(32)。また、「川上行義」は別名『鉄石心』というが、こちらは、大勝館で翌九月から上映されている。『鉄石心』の広告にも「演者を箱根山中に派遣し」て「狐火中」の格闘を撮影した旨が記される(33)。「伊賀越道中双六」は大勝館で十月後半の上映であった(34)。

その後、記念大勝館では、九月下旬から教育的軍事劇『孝子の鑑』(35)、一〇月からは新派演劇『子煩悩』(37)、一〇月半ばから新派演劇『人の親』(39)、一〇月下旬から一一月にかけて旅順実戦『肉弾』(40・42)というように、新派や日露戦争を反映した軍事劇

が続く。再び歌舞伎の上映が見られるようになるのは、翌四三年二月『三勝半七酒屋の場』(53)からである。この時は中村歌扇一座出演と標しての上映であった。その後、三月には『三十三間堂』(55)、四月『中将姫』(57)、五月『袖萩祭文』(60)という具合に、新派作品と同時に上映の形で歌舞伎の上映が復活した感がある。

他方、大勝館でも明治四二(一九〇九)年八月に軍事演劇『日本桜』(31)、九月に『鉄石心』(33)、一〇月からは『卍(まんじ)』(36)、一〇月中旬からは『琵琶歌』(38)、十一月には『新ホト、ギス』(41)と、やはり新派映画が続く。このうち、四二年八月の『日本桜』は、先述の『不如帰』を作った岩藤思雪が、役者自身の陰セリフや鳴物入りの上映に反発し、自身の脚色・監督により、外国作品を模して陰セリフや鳴物を入れずに作った作品だとい⁸う。また、明治四三年一月から『寺子屋』(49)、四月から『本朝廿四孝』(56)、五月から『先代萩』(59)というように、新派作品の同時上映として歌舞伎を上映するようになるのも記念大勝館と同様である。大まかに言えば、明治四三年の春ごろから、メインに新派作品、同時上映として歌舞伎(旧劇)、そこに西洋写真や、かっぱれで有名な梅坊主や剣舞などの余興を添える



図4 明治四三年、新装開場した大勝館(左手前)。看板に「乳屋の娘」、幟に「神刀流」とある。大勝館の奥が記念大勝館。看板に「記念大」の文字が見える。

(編者不明『Views of Tokyo_東京名所写真帖1』尚美堂1910より)

という形が定着したと言える。

『本朝廿四孝』を上映した明治四三（一九一〇）年四月は、大勝館が新築開場した月でもある。二ヶ月ほどの休館を経て、外観も一新して新開場している（図4）。この時に上映されたのが、先の『本朝廿四孝』と、新派劇の『乳屋の娘』であった（56）。『乳屋の娘』は「三十五日間も連続映写したほどで日本フィルム中の傑作」と評された。⁹ その後も五月には新派劇『新侠艶録』（59）、徳富蘆花著『寄生木』（61）、篠山吟葉脚色『黄菊白菊』（64）と新派の上映は続いていく。

記念大勝館の閉館と日活創業——明治四三年七月—大正元年九月

記念大勝館は明治四三（一九一〇）年夏で閉館となったらしい。あまりはつきりしたことは分かっていないが、『都新聞』の広告では、明治四三年七月一四日から公開の新派劇『許嫁』、旧劇『お岩稲荷』ほかが最後である（68）。同年一〇月五日に同地には世界館が開館し、経営はMパター商会から横田商会へと移った。

この一連の動きの背景には、Mパター商会の経営破綻が関係していると考えられる。梅屋庄吉の無謀な経営により、Mパター商会は明治四三年秋には小切手の不渡りを出し、商会の営業権が隅田川汽船社長の古川幸七の手に渡ったという。¹⁰ そして、その負債整理を目論んで同社が株式会社化され、さらにはMパター、横田商会、吉沢商店、福宝堂の四社の合同企業化の話が持ち上がる。明治四四（一九一一年）二月には梅屋庄吉がMパター株式会社の買収に応じ、そこから残る三社の買収が進んで、大正元（一九一二年）一月一日、日本活動写真株式会社設立される過程については日本映画史に記されるところである。¹¹

明治四三年から大正元（一九一二年）年までの二年余りはMパターにとっては激動の時期だったはずだが、大勝館の上映に大きな変化は見られない。明治四三年七月の新派劇『ボイソン』と勤皇美談『高山彦九郎』（69）、八月の都新聞新派劇『心中くらべ』とやまと新聞連載旧劇『相馬大作』（70）というように、新派と史劇、あるいは新派と歌舞伎（旧劇）、稀に旧劇と旧劇の組み合わせで上映が続けられていく。ただ、明治四三年五月の『先代萩』（59）、同年五月下旬、四五年六月からの『野崎村』（61・132）、あるいは明治四四年一月の『累物語』（『かさね』（81）、同年五月の『乳屋の娘』（90）、同年九月や翌四五年五月の『鈴木主水』（99・129）など、過去に上映

した作品と同名の作品の上映が目につく。同名であっても新たに撮影したものである可能性もあるが、株式会社化や合同企業化に向けた動きに翻弄され、新しい作品が思うように撮影できなかった可能性は指摘できよう。日活創立後の大正元年の状況について、田中純一郎は「旧横田系の三館以外は、ほとんど旧作の再上映でお茶をにごす始末¹²⁾」と記している。その経営状況に鑑みると、Mパターでは日活に統合される以前から旧作の再上映が増えていたのかもしれない¹³⁾。なお、旧作と同名作品の上映が散見される一方で、明治四四年から四五年にかけては、義士銘々伝、義士外伝など忠臣蔵物の上映が盛んに行われていることも申し添えておく。

このような状況の中、Mパターはその名を冠したパター館を浅草に開業する(図1の地図の③)。明治四三年夏にはあったというが、『都新聞』の広告に現れるのは明治四四(一九一一年)一〇月の『蛇の目館清蔵』・『明烏夢の淡雪』(101)が最初である。パター館では、旧劇『稲妻権次』(105)、『熊谷陣屋』(111)など歌舞伎の上映が多く、新作であっても伊井蓉峰氏出演『楠木正成』(105)のような史劇や、松田竹嶼先生作『加賀鳶』(104)、実説『弁天小僧』(109)など歌舞伎ネタの作品が目立つのが特徴である。大正元(一九一二年)一〇月には大勝館、パター館ともに日活のフラッグシップ館になるわけだが、パター館は大正一〇年八月に日活との契約を終えて、活動写真資料研究会所属の映画館、大東京となる(朝日1924/8/24)。大勝館は親会社を変えながら、その名は昭和四六(一九七一年)九月まで存続する。

中村歌扇と大勝館

以上の映画館の動向を踏まえ、女役者の中村歌扇と大勝館との関わりに目を移したい。主たる疑問は、中村歌扇の一座が大勝館や紀念大勝館などMパター社の活動写真にどのくらい出演していたのか、という点である。

まず、旭館開館前の大勝館で新聞広告に中村歌扇の名が記されるのは最初の『曾我兄弟狩場の曙』であるが、それに続く作品の多くにも歌扇が出演していたと考えて良さそうである。というのも、田中純一郎が、この時期のMパター社の撮影を請け負っていた鶴淵幻燈店(幻燈舗)の西川源三郎が撮影したのものとして『壺阪靈験記』(11)、『明烏夢淡雪』(12・13)、『梵字の文覚』(15)、『塩原多助』(16)、同じく鶴淵の男沢肅が撮ったものとして『伽羅先代萩』(4・6)、『絵本太功記』(『太功記十段目』(7・8))と『碁盤忠信吉野山中

の場』(『碁盤忠信』)(9・10)の名を挙げているためである。¹⁵⁾

歌扇は大勝館での活動写真の撮影・上映と並行して第二共盛館で娘芝居を演じ、さらに四月の旭館改称以降は、「新発明実写活動幻芸『清水清玄』」にも「女優中村歌扇一座」として出演している(14)。その後の「幻芸」の広告に歌扇の名は見られないが、当時の新聞記事に「座付きの娘美園の一座をして幻芸といふ名称の下に新興行」(読売1909/04/14)、「娘演芸歌扇一座の一名幻劇」(都1909/05/26)とあることから、『清玄』以降の「幻芸」(17、19、20、22)にも歌扇率いる美園一座が出演していたものと思われる。また、四二年六月に旭館で上映された活動写真『幻芸』(17、19、20、22)にも歌扇率いる美園一座が出演していたものと思われる。まどなども残されている(土田・二〇二一「四一ページ」)。これだけの数の活動写真を撮りながら舞台にも出演していたとなれば、かなりの重労働である。その後大勝館では『朝顔日記』(23)、『堀川猿回し』(26)、横田商会との合同特約となった旭館では『関取千両幟』(24)、『夏祭』(25)、『蘭蝶』(27)など、歌扇が出演していてもおかしくない演目が並ぶが、資料が乏しく、断定は難しい。その中で、四二年六月大勝館の『朝顔日記』(23)に関しては、安藤鶴夫が回想を残している「歌扇主演の映画『朝顔日記』」(読売1963/11/15)と一致すると考えたい。

そして、明治四二(一九〇九)年八月、新派劇『影法師』にて記念大勝館がオープンする(30)。これには歌扇が出演していた。「横田、パター両商会合同にて明日より開館し 本紙の青々園作「影法師」を新派の菊池、岡本、大山、藤井等外数名と女優の中村歌扇社中総勢五十名が去月の末箱根にて映写せし二千五百尺の長物を披露すと」の記事が『都新聞』に掲載されている(都1909/08/08)。さらに、先にも引用した「此「影法師」は先月館主自ら役者を従へて箱根に赴き 同山の絶勝を応用して撮影し来つたもので 同時に新演劇「川上行義」旧劇「靈験記」「伊賀越」等の長尺物を写し取つた」(読売1909/08/15)の記事を併せて考えると、このあとの『箱根靈験記』(32)、『鉄石心』(川上行義)(33)、『伊賀越』(34)にも歌扇が出演していたと考えるのが自然であろう。

数か月後になるが、明治四三(一九一〇)年二月、記念大勝館の「三勝半七『酒場の場』」の新聞広告にも、娘義太夫とともに「中村歌扇一座」の出演が見られる(53)。また、同年四月大勝館の『乳屋の娘』(56)については、『活動俳優銘々伝』の「中村歌扇」の項に「日本フィルム中の傑作¹⁶⁾」とあることから、歌扇が出演していたと考えたい。このように、明治四一年九月の『曾我兄弟狩場の曙』以降、明治四三年の春までは大勝館と旭館↓記念大勝館に、断続的に中村歌扇の出演を確認することができる。他の作品にも出演して

いた可能性はあるだろう。

その年の七月には記念大勝館が閉じ、大勝館にも歌扇出演の手がかりが得られない時期が続く。大勝館では歌舞伎の上映が充実しており、そのラインナップから考えると出演していた可能性が高いと思われるが、裏づけがない。明治四三年一二月大勝館の広告に「新派『当り的』全七幕 常磐津所作事『三つ面 万歳』 中村歌扇一座出演」(80)と見ることができ、次なる確かな情報である。その後再び半年ほど歌扇の出演情報のない時期が続くが、明治四四年夏になると、『都新聞』紙上に吉山旭光による活動写真評が掲載されるようになり、広告以外にも歌扇の活動写真出演に関する情報を得ることができる。例えば、明治四四年八月大勝館の『雷六郎』(97)について、

黙禪氏の原作を脚色したもので、背景も中々よい、お柳に扮した歌扇もよくやつては居たが拵へがあまり立派すぎて、貧しい漁夫の娘とは受取れぬ、鉄砲が火繩銃でなく洋式銃で間に合せたのは経費其他の事情からであらう、落雷の場は二重焼きに電光を焼付けて欲しかった

(都 1911/09/01)

と書かれる。また、パター館の『元和三勇士』(初日不明・通し番号なし)については、

例の歌扇一座が越前三国辺で撮つた講談物、石切山は雄大な背景だ、三勇士の戸田新八郎が少し安つぽかつたのは遺憾、一座の花形のぶ子が宿屋の女中になつて飯櫃を抱へて尻餅をつくと云ふ滑稽は、此人にしては意外の出来

(都 1911/10/11)

と評された。傍線部「例の歌扇一座」とあることから、歌扇一座はMパターの映画ではおなじみだったことが窺える。明治四五年二月にパター館で『老後の政岡』『暇乞の場』(115)が上映された後、二月下旬からは「松島絶景応用 中村歌扇仙台みやげ 実傳『原田甲斐』全十五場」(116)の上映が始まる。映画評にも取り上げられ「歌扇一座が仙台で興行の土産物、松島の舟中で甲斐が片倉と胸中を語り合ふ件は松島の実景を応用したゞけに感興が深かつた」(上野大競争館) (1912/6/3)と評され、歌扇一座が仙台巡業の際に映画の

撮影もしたことが分かる。また、明治四五（一九一三）年五月、大勝館で上映された新派劇『湖畔の家』（125）については次のような好評を得ている。

本郷座の当り狂言、箱根の湖水の実景を応用して撮つたもの エム、パター派としてはフィルムを惜しまぬ撮り方が破天荒だ、歌扇のお蝶 信子嬢の美保子、旧派出の優ゆゑなのに少しも旧派式を出さずにやつて退けたのは嬉しい、此写真は近來の見物だ（大勝館）
（都 1912/5/13）

先の越前や仙台と違い、箱根での撮影はMパター社にとつても歌扇にとつても定番だが、この『湖畔の家』は「近來の見物」という高い評価を受けている。同じ五月の半ばからはパター館で「壮絶快絶箱根絶景応用 曲亭馬琴翁 椿説弓張月『鎮西八郎為朝』 最大長尺 全五十場」（127）の上映が始まり、これにも歌扇が出演している。「箱根絶景応用」と謳われているように、箱根で撮影したものだ。さらに、同じ時期の大勝館では「勤皇美談『秋田義民伝』十一場」（128）が上映され、歌扇が高い評価を受けている。

これも箱根山中の絶景を応用したので見耐えがあるが、戦場は俳優に活気がなくて不出来、歌扇嬢の伝の助女房、定めし偽狂乱の件では得意の振事を見せるかと思ひの外、写實的に極アツサリやつて退けたのは案外だ、同じ筋を撮つたのも横田の方は奇、此方は正と云ふやり方と見受けた。
（都 1912/5/20）

ひと月のうちに二館で上映される三作をまとめて箱根で撮影している様子が想像できる。そしてそこには中村歌扇の姿があった。

おわりに

本稿で対象とした明治四一年九月から大正元年の九月まで、実に多くの作品が大勝館、旭館↓記念大勝館、そしてパター館で上映さ

れてきた。初日の分かる興行だけでも一四八にのぼる。その作品や撮影技術の検証はこれからの課題となろうが、題材が歌舞伎から新演劇へと拡がっていった様相は見る事が出来た。一方、それらの作品における中村歌扇の活躍も非常に断片的ながら辿ることができた。実際に広告や映画評に歌扇の名前が載るのは一四興行のみにすぎない。しかし、「例の中村歌扇」という映画評の表現や、ひと月のうちに上映される複数作品に出演していたり、箱根で複数作品をまとめて撮影していたりした状況から、比較的多くの作品に出演していたのではないかと想像したくなるのである。

また、今回の調査で確証が得られた事例もある。次に挙げるのは、「日本映画情報システム」¹⁸⁾に歌扇の名(木下姓を含む)が見られるものの、「土田・二〇二二」(四三ページ)では出演の裏付けが取れなかった作品である。

明治四十二年(一九〇九) 八月八日…木下歌扇『陰法師』(伊原青々園原作) Mパター、記念大勝館

明治四十三年(一九一〇) 二月十五日…中村歌扇一座『酒屋の場』 Mパター、大勝館

明治四十五年(一九二二) 二月三日…木下歌扇『老後の政岡』 Mパター、パター館

明治四十五年(一九二二) 五月一日…木下歌扇『湖畔の家』(小島孤舟原作) Mパター、大勝館

明治四十五年(一九二二) 六月十九日…木下歌扇『女金色夜叉』 Mパター、パター館

このうち「女金色夜叉」¹³³⁾を除く、『陰(影)法師』³⁰⁾、『酒屋の場』¹³⁶⁾、『老後の政岡』¹¹⁵⁾、『湖畔の家』¹²⁵⁾には、中村歌扇の出演が確認できた(いずれも本論で触れている)。

「Mパターは歌扇歌舞伎の外に、地方回りの小劇団を使って、新派や旧劇を作っていたので、同系の傘下にある牛込文明館、麻布文明館、上野の第一競争館などに上映した」という説明もあることから、映画の被写体になっていたのは歌扇ばかりではない。しかし、大勝館と記念大勝館の歩みを見ると、その中で歌扇がかなり中心的な役割を果たしていたことが窺われるのである。

〔付記〕 本稿は、科学研究費(課題番号17K02287)による研究成果の一部である。本稿の執筆に際し、資料の閲覧・掲載許可を頂い

た国立国会図書館、早稲田大学演劇博物館に感謝申し上げます。

注

- (1) 大勝館については、今村昌平ほか編『講座日本映画1 日本映画の誕生』(岩波書店、一九八五)の「映画館のはなし」で取り上げられている。
- (2) 加賀山直三「女役者」『演劇百科大事典』、服部幸雄「女役者」『日本大百科全書』、小池章太郎「女役者」『新版歌舞伎事典』、児玉竜一「坂東三津江関係資料をめぐって」(金子健編『図録 三代目坂東三津五郎展——その足跡と衣裳——』早稲田大学演劇博物館、二〇〇八)。女役者に關する近年の研究として、佐藤かつら「市川九女八年譜稿」(一)(二)(三)、『パラゴネ』(三号・二〇一六)(五号・二〇一八)(六号・二〇一九)がある。
- (3) 「また消える浅草の灯——大勝館、来月店じまい」『読売新聞』(都民版)一九七一年八月二九日。
- (4) 「幻芸」について、詳しくは横田洋「連鎖劇の研究——明治・大正期の映画と演劇の關係をめぐって」(大阪大学博士論文)(二〇一〇)および拙稿「女役者、中村歌扇——浅草娘芝居時代を中心に——」『共立女子大学文芸学部紀要』(六八集・二〇二二)を参照されたい。
- (5) 『紅葉狩』は長唄だけではなく、義太夫節と常磐津節をも用いた三方掛合の音楽が特徴だが、富士館での映写では長唄のみだったか。
- (6) 田中純一郎『日本映画発達史I(活動写真時代)』中央公論社、一九八〇年、一五五ページ。
- (7) 同右、一六一ページ。田中は『新不如帰』と表記するが、「四二年六月二五日牛込文明館公開」という記述などから考えて同一作品と判断した。
- (8) 田中、前掲書、一六〇〜一六一ページ。
- (9) 岡村紫峰『活動俳優銘々伝一の巻』、活動写真雑誌社、一九一六年、一八一ページ。
- (10) 田中、前掲書、一七九〜一七九ページ。
- (11) 田中、前掲書、および田中純一郎著・本地陽彦監修『秘録・日本の活動写真』(ワイズ出版、二〇〇四)、日活株式会社編『日活創立とその前後』『日活四十年史』(日活、一九五二)などを参照。
- (12) 田中・本地、前掲書、一四四ページ。
- (13) もっともMパターの状況については、同社の他の映画館も併せて検証しないと、再上映の状況を正確に把握することはできない。それについては今後の課題としたい。
- (14) 国際映画通信社編、『日本映画事業総覧 昭和2年版』、国際映画通信社、一九二七、一九四ページ。
- (15) 田中、前掲書、一五五〜一六〇ページ。

- (16) 岡村、前掲書、一八一ページ。
- (17) 『都新聞』「活動写真」(1912/5/20) には、箱根だけでなく小田原でも撮影したことが記される。
- (18) 文化庁「日本映画情報システム」<https://www.japanese-cinema-db.jp/> (二〇二二年九月三十日閲覧)
- (19) この『酒屋の場』のみが、『日本映画情報システム』と『都新聞』による調査との間に、上映時期の齟齬がある。
- (20) 田中・本地、前掲書、一一五ページ。

表・大勝館・記念大勝館(旭館) 上映作品一覧(稿)

※ 日本で制作されたと考えられる活動写真の作品名には原則として『』を付け、太字で示した。
 ※ 中村歌扇の名が見られる箇所には傍線を引いた。
 ※ 典拠とした新聞広告の日付も記したが、同一作品上映中は同様の宣伝が数日にわたって掲載される。

和暦(初日)	劇場	演目1	演目2	その他余興など	典拠
1 明治41年9月30日	大勝館	歌舞伎十八番『曾我兄弟狩家の曙』場面三段返し 女俳優娘美園中村歌扇 他数名出演 本月廿日撮影 囃子鳴物入御覧に供す		其他新着写真数種、余興ビュチーダンス及びブラックアート花輪の蝶	都1908/10/02
2 明治41年10月下旬	大勝館	米国艦隊横浜上陸の光景 同市民歓迎の実況	『曾我兄弟夜討』三段返し	其他ビクトロリーダンス	都1908/10/22
3 明治41年10月下旬	大勝館	米国艦隊彼我艦隊接近祝砲交換ス 提督伊集院司令官三笠艦上握手の実況 日比谷歓迎会	仏国オルレラン大鉄工場大火災の実況 『曾我兄弟夜討』三段返し	其他ビクトロリーダンス 其他滑稽悲劇魔術十数種	都1908/10/29
4 明治41年11月1日	大勝館	『伽羅先代萩』御殿より床下まで 二幕 竹本常盤津長唄連中 鳴物入にて御らん入候	仏国オルレラン大鉄工場大火災の実況	余興ビュチーダンス数種	都1908/11/06
5 明治41年11月11日	大勝館	大滑稽『軽業好の紳士』『宝石泥棒』(仏国近時の出来事) 『抱腹絶倒乳母の失敗』(其他数種)	番外『伽羅先代萩』御殿より床下まで二幕 常盤津義太夫長唄入 仏国鉄工場大火災の実況	余興ビュチーダンス数種	都1908/11/18
6 明治41年11月23日	大勝館	大悲劇ネーブル鉱山大破裂 其他数種	番外『伽羅先代萩』二幕 義太夫長唄常磐津 鳴物入	仏国鉄工場大火災の実況 余興ビュチーダンス数種	都1908/11/27
7 明治41年12月2日	大勝館	『絵本太功記』尼ヶ崎段 竹本、囃子、声色、鳴物入	正劇『賭博の戒』大滑稽『自動車狂人』其他十数種	余興 花輪の蝶	都1908/12/13

19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8
明治42年5月8日	明治42年5月1日	明治42年4月22日	明治42年4月12日	明治42年4月1日	明治42年4月1日	明治42年3月15日	明治42年2月24日	明治42年1月27日	明治42年1月中旬	明治42年1月1日	明治41年12月18日
旭館	大勝館	旭館	大勝館	大勝館	旭館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館
実写活動幻劇 喜劇『江戸っ子気性』三場 大江民五郎宅より大川肥前守御殿内まで	『佐野治郎左衛門』八ッ橋部屋より百人斬まで	新発明実写活動応用演芸 紅葉全集一節『夏小袖』全三場	『塩原多助名馬譚』全四幕(天然色入)	『枕子の文覚』架梁御前殺より荒行の場迄 全三場 義太夫声色鳴物入芝居式御覧に供す	新発明実写活動 幻芸『清水清玄』三場 女 優中村歌扇一座出演	『佐倉宗五郎』子別れより渡場迄 弐幕	『明烏夢淡雪』(上下) 弐幕	『壺阪靈験記』澤市宅より谷底まで	人情劇『孝女の真ごころ』全七幕	『碁盤忠信』吉野山雪中の格闘	人情劇『貧と正直』滑稽『嬰兒の品評会』 外十数種
『皿屋敷』お菊の亡霊 壹場 『戻り橋』三場	滑稽一輪車の疾走 悲劇捨子 悲劇新夜の鶴 其 他十数種 番外好み『塩原多助名馬譚』四場	『皿屋敷』壹場 『戻り橋』壹場	人情劇『母の慈愛』・伊国ナイスの景 正劇『破れ衣』 其他十数種	滑稽南瓜の競争○悲劇忠犬美譚○花いばら 其他数種 番外『佐倉宗五郎』	『女天下』四場 『橋弁慶』一場	ノールウエー国捕鯨の実況(壮観) 喜劇『ば け物棚』、其他新着写真壹○数種 番外好み 『明烏夢淡雪』新内節義太夫入	悲劇『狂女の血涙』最長尺 正劇『心の鬼』全九場 其他十数種	梅坊主かつぱれ踊	『碁盤忠信』吉の山雪中格闘	人情劇美しき農夫の娘 大滑稽二人小僧の新 悪戯	番外『絵本太功記』尼ヶ崎場 竹本声色囃子 鳴物入
種 正劇悲劇滑稽の新着面数	西洋活動写真全部取替	余興最近輸入活動写真数	余興ピオラマ富士山の遠 望 田子の浦実景	余興ピオラマ	該当なし	余興ピオラマ 電氣所作事『三ツ面』	該当なし	余興ピオラマ『雪月花』 三段返し 其他西洋新着 写真数種	余興 宮島実景ピオラマ 『雪月花』三段返し 其 他 女夫泥棒 憤むべき 酒の罪 滑稽兵士の運動 外十数番	大余興驚天動地ピオラマ 『雪月花』の変化	余興 花輪の蝶
都 1909/05/09	都 1909/05/09	都 1909/04/23	都 1909/04/23	都 1909/04/03	都 1909/04/03	都 1909/03/14	都 1909/02/24	都 1909/02/03	都 1909/01/14	都 1909/01/07	都 1908/12/18

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
明治42年7月21日	明治42年7月19日	明治42年7月11日	明治42年7月4日	明治42年7月1日	明治42年6月16日	明治42年6月15日	明治42年6月1日	明治42年5月16日	明治42年5月11日
旭館	大勝館	旭館	大勝館	旭館	旭館	大勝館	旭館	大勝館	旭館
活動写真『此糸蘭蝶』新内節鶴賀柳太夫出語の美声 鳴物声色入	『不如帰』全十一場三千尺	活動写真『此糸蘭蝶』新内節鶴賀柳太夫出語の美声 鳴物声色入種	『お俊伝兵衛 堀川猿回しの場』義太夫声色囃子入	日本劇大写真『夏祭り浪花鑑』団七九郎兵衛泥試合の場 声色鳴物入り	『関取千両職』優美鮮明長尺写真	『朝顔日記』(宿屋より大井川まで全二幕) 義太夫鳴物声色入	活動写真『日高川入相桜』二場 女優中村歌扇一座出演 義太夫出語声色囃子入 真名古内より渡場人形ぶり	『鈴木主水』全七幕 映写時間一時三十分間 新内義太夫出語り声色入	日本劇活動大写真『御所桜弁慶上使』(二幕) 是は活動写真より実写活動引ぬき早替りの奇術新案
悲劇無実の罪 其他名画数種	『お俊伝兵衛 堀川猿回しの場』義太夫声色鳴り物入 仏国新画輸入若夫婦 妻の罪 武士の情け	活動写真御好み番外『夏祭り浪花鑑』団七九郎兵衛泥試合の場	人情劇思わぬ人、悲劇難破船、巴里の層屋、馬鹿大将の失恋、最近露国風俗、其他数種番外好み『朝顔日記』引続御覧に入候	仏国最近輸入特色写真画『職工亀鑑』『雪中梅』喜劇『愛の花束』御伽劇『神の恵』	御高評番外好み『日高川』渡場人形振	悲劇兄と妹、非常線、シシリ、硫黄山の実況、二人泥棒、夏の虫、婚礼の進物 其他数種	旭館新式実写活動『かさね身うり殺し場』二場 同優出演 電気作用旭館特有の亡霊土橋の亡霊	該当なし	新式発明実写活動幻劇『浅間獄時鳥殺し』(四幕) 同じく亡霊 亡霊は本館特色 最大無類の尤物なり
番外『夏祭浪花鑑』外数種	西洋新着写真数種	種番外数	余興『御伽劇桃太郎一代記』七場 仏国最近輸入特色画救ひの神、玉手箱、遊覧船 其他名画数種	其他正悲劇滑稽画数種	西洋新画 又々出ました 悲劇小僧 慈悲と情 骸骨の曲芸 其他正悲劇数種	番外『野崎村』余興ピオラム田子の浦実景	該当なし	最近輸入活動写真悲劇喜劇十数種 余興ピオラム田子の浦実景	西洋新画活動大写真 正劇悲劇滑稽人情劇数種
都 1909/07/22	都 1909/07/14	都 1909/07/14	都 1909/07/14	都 1909/07/04	都 1909/06/17	都 1909/07/01	都 1909/06/01	都 1909/05/17	都 1909/05/12

41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	
明治42年11月1日	明治42年10月21日	明治42年10月15日	明治42年10月15日	明治42年10月初旬	明治42年10月1日	明治42年9月下旬	明治42年9月16日	明治42年9月1日	明治42年9月1日	明治42年8月15日	明治42年8月8日	
大勝館	大勝館 紀念	大勝館 紀念	大勝館	大勝館 紀念	大勝館	大勝館 紀念	大勝館	大勝館	大勝館 紀念	大勝館	大勝館 紀念	
『新ホト、ギス』全十四場	大勝館発行篠原葉氏作 大勝館編集脚色	旅順美戦『肉弾』八場	新派演劇『人の親』全六場 声色鳴物入	新派演劇『琵琶歌』全拾一場	新派演劇『子煩悩』全篇通し十六場 声色鳴り物入	有楽座當狂言 伊井一派出演『卍(まんじ)』全九場	教育的軍事劇『孝子の鑑』全十二幕 声色鳴物入	『伊賀越え道中双六』五場 沼津平作内より敵討まで 義太夫鳴物声色入	演劇新派『鉄石心』全十幕 演者を箱根山中に派遣し狐火中格闘の場は確に一見の価値あり	箱根撮影『箱根靈驗記』全三幕 義太夫声色鳴物入	軍事演劇『日本核』全九場	新派劇活動写真『影法師』全篇通し 最長尺二千五百尺 熊本寺田村辻堂の場・寺田村船越内殺の場・木の葉陣営別れの場・北海道月形村外役先の場・北海道月形村小栗家の場・歓迎祝日園遊会の場
『新ホト、ギス』全十四場	西洋大悲劇『狐師の娘』大滑稽『浮れの音楽』	大喝采中の『子煩悩』十六場 声色鳴物入 御懇望に随引統御覧に入	西洋演劇『人の妻』全三場	教育美談『孝子の鑑』十二場 大高評御好み引統き御覧入候	該当なし	大高評御好み『鐘の響』五場 声色鳴物入 同『箱根靈驗記』五場 義太夫鳴物入	番外好み『川上行義 鉄石心』大好評引統御覧に入候	該当なし	新派『鐘の響』全三幕 声色鳴物入	お静礼三『小磯ヶ原』義太夫、声色鳴物入	該当なし	西洋最近特色画数種
其他正悲喜劇数種	其他西洋新写真数種	其他西洋新写真数種	其他正用新着写真数種	其他正用新着写真数種	其他正用新着写真数種	其他西洋新写真特色画数種	最近輸入写真数種	西洋新着写真数種	他西洋新写真数種	舶来写真本月五日新着 選抜写真のみ御覧に入れ候	西洋最近特色画数種	西洋最近特色画数種
都1909/11/02	都1909/10/28	都1909/10/15	都1909/10/15	都1909/10/02	都1909/09/29	都1909/09/18	都1909/09/18	都1909/09/02	都1909/08/31	都1909/08/16	都1909/08/07	都1909/08/07

42	明治42年11月上旬	紀念 大勝館	旅順実戦「肉弾」十一月六日限り 八場 声色鳴物入り	「雪子夫人」十一月七日より 六場 声色鳴物入り	該当なし	都 1909/11/02
43	明治42年11月7日	紀念 大勝館	「雪子夫人」室戸子爵邸歓迎会、糟谷博士書齋、相州葉山海岸、青山墓地、糟谷離室、箱根芦ノ湖畔	該当なし	該当なし	都 1909/11/14
44	明治42年11月15日	大勝館	大阪毎日新聞所載 菊池幽芳氏作 志村松之助一座出演 新派演劇「月魄」全十幕	該当なし	其他西洋新着写真全部新画数種	都 1909/11/14
45	明治42年11月20日	紀念 大勝館	「女の望」七場（声色鳴物入）	番外「雪子夫人」六場	西洋写真 珍画差替	都 1909/11/19
46	明治42年12月2日	紀念 大勝館	館内大改良 修繕中休業 但開館の上は大進歩大発展の活動写真を御覽に供し升	該当なし	該当なし	都 1909/12/03
47	明治42年12月5日	大勝館	大勝館編集部脚色 新派演劇大悲劇「涙」全十一編	該当なし	西洋新着写真数種	都 1909/12/05
48	明治42年12月17日	紀念 大勝館	新派劇「目黒巷談」全九場	娘劍舞 詩吟（捨子・本能寺）	西洋新写真 正、喜、悲劇数種	都 1909/12/15
49	明治43年1月1日	紀念 大勝館	新派劇「後の己が罪」全十三幕廿四場	梅八一座「滑稽勸進帳」安宅新聞	西洋新写真優秀画十数種	都 1909/12/30
50	明治43年1月1日	大勝館	新派演劇「武士的教育」全十場	「菅原伝授手習鑑」（寺子屋の場）	西洋新着写真数種	都 1909/12/30
51	明治43年1月21日	紀念 大勝館	新派劇「乳姉妹」新撮影 全十五幕廿二場	梅坊主大一座「滑稽勸進帳」達て御需により引続御覽に入升	西洋新写真優秀画十数種	都 1910/01/29
52	明治43年2月1日	紀念 大勝館	新派劇「乳姉妹」新撮影 全十五幕廿二場	梅八一座大得意 喜劇「人肌地蔵」 梅松アホダラ経浪花節入	西洋新写真優秀画十数種	都 1910/02/26
53	明治43年2月15日	紀念 大勝館	新派大悲劇「女心」全八幕三十場	中村歌扇一座出演「三勝半七 酒場の場」 娘義太夫竹本年春出語	梅坊主十八番 喜劇「人肌地蔵」アホダラ経浪花節入 其他西洋写真数種	都 1910/03/14
54	明治43年3月3日	紀念 大勝館	新派「想夫憐」全七幕十一場	日本大偉人御伽劇「ハルピンの夢」 四幕五場	梅八一座十八番大滑稽雀踊 大津絵 西洋新写真数種	都 1910/03/03

66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55
明治43年6月22日	明治43年6月10日	明治43年6月7日	明治43年5月下旬	明治43年5月下旬	明治43年5月21日	明治43年5月初旬	明治43年5月1日	明治43年4月下旬	明治43年4月7日	明治43年4月1日	明治43年3月15日
大勝館	大勝館 紀念	大勝館	大勝館 紀念	大勝館 紀念	大勝館	大勝館 紀念	大勝館	大勝館 紀念	大勝館 紀念	大勝館	大勝館 紀念
新派劇『後の琵琶歌』全八幕	悲劇『狂美人』全二十四場	報知新聞所載 篠山吟葉氏脚色『黃菊白菊』八幕	新派『悲劇浮世の娘』	新派『悲劇前科者』全十一場通し	本郷座當狂言 徳富蘆花氏著『寄生木』全十四幕	新派悲劇『恋慕ながし』全十七場	新派劇『新俠艶録』六幕	新派悲劇『恋無常』全十一場	大悲劇『吉丁子』東京朝日新聞掲載 十一幕 廿五場	都新聞所載『乳屋の娘』つゞき十四場	大悲劇『新鐘の響』五幕七場
史劇『白虎隊』全十一場	旧劇三十三所『壺阪靈驗記』澤市内より谷間迄 娘義太夫竹本年春松枝出演	旧劇『白石噺 揚屋』義太夫入	旧劇『日吉丸権桜 三段目 五郎助内の場』	旧劇『日吉丸権桜 三段目 五郎助内の場』	お染久松『野崎村』義太夫入	旧劇『安達原三段目 袖袂祭文の場』	『先代萩』御殿より床下まで 義太夫入	御好み番外『中将姫雪責の段』	『中将姫雪責の場』娘義太夫年春松好出語	旧劇『本朝廿四孝』十種香より狐火迄	『三十三間堂由来』娘義太夫出語連弾 声色 鳴物入
西洋新写真数種	劍舞『川中島』吟声入 余興梅坊主一座出演 其他 西洋写真全部差替	吟声丸谷君 其他 西洋写真全部差替	西洋写真 梅坊主は例の通り	其他 西洋写真 梅坊主は例の通り	劍舞有雨水陸吟声入 其他 西洋写真数種	余興実物梅坊主一座出演	西洋写真滑稽水掛論、アルプス山砲兵演習、迷信家の失敗、正義の少年	劍舞術残月、孤軍、吟声入	梅坊主は実物忠臣蔵六段目	該当なし	余興梅坊主一座 其他 西洋新写真
都 1910/06/23	都 1910/06/10	都 1910/06/09	都 1910/05/24	都 1910/05/21	都 1910/05/20	都 1910/05/07	都 1910/04/30	都 1910/04/23	都 1910/04/09	都 1910/04/03	都 1910/03/15

76	75	74	73	72	71	70	69	68	67
明治43年10月15日	明治43年10月15日	明治43年10月3日	明治43年9月22日	明治43年9月4日	明治43年8月25日	明治43年8月1日	明治43年7月15日	明治43年7月14日	明治43年6月26日
大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館 紀念	大勝館 紀念
幕末の志士と勤皇芸妓 史劇『恨の長年』十場	新派劇『二人狂』十二場	新派劇『こゝろの花』全十二場	日本探偵劇『水中美人』全十二場	家庭劇『孝女白菊』全十八場	史劇『上野戦争彰義隊』全九場	都新聞新派劇『心中くらべ』全十二場	新派劇『ボイソン』七幕	新派劇『許嫁』全十三場	悲劇『黄薔薇』全拾五場
新選『子はかすがい』四場	台湾討蕃隊 劍舞南極探検『日出国』(神刀流木崎正道先生出演・同門下二少年出演)	旧劇『春雨傘』続き 十幕	史劇『児島高德』弐場 史劇『ネロ王物語栄華の夢』	旧劇『高野長英』三幕	新派悲劇『自業自得』全十幕	やまと新聞連載旧劇『相馬大作』全六幕	勤皇美談『高山彦九郎』(上下)	旧劇『お岩稲荷』伊右衛門宅の場	旧劇『菅原天神記』車曳の場(娘義太夫 竹本年春、松好出語り)
マ古跡と瀑布の壮観	神刀流 飛雨 木崎先生 門下少年吟士丸山氏 劇禁酒運動 白蓮華 貞 女ルイザ 球旅行 ロー	ナイルの風景『馬鈴薯騒動』喜劇『夜会服』 大悲劇『西洋曾我』	劍舞 衣至肝 吟声入 其他西洋悲劇數種	劍舞 衣至肝 吟声入 其他西洋悲劇數種 (最長尺) 他十數種	神刀流劍舞 後本能寺(吟声入) 西洋悲劇人の罪 (最長尺) 他十數種	今回の水害大惨状の実況 其他西洋写真數種	劍舞 残月 男子立志 吟声入) 西洋新着写真數種	余興梅坊主一座出演実物 清国人奇術曲芸 其他西洋新着写真數種	実物梅坊主一座出演 其他西洋写真
都 1910/11/16	都 1910/10/15	都 1910/10/06	都 1910/09/23	都 1910/09/03	都 1910/08/25	都 1910/07/30	都 1910/07/16	都 1910/07/16	都 1910/06/28

86	85	84	83	82	81	80	79	78	77
明治44年4月1日	明治44年3月12日	明治44年3月1日	明治44年2月14日	明治44年2月1日	明治44年1月14日	明治43年12月31日	明治43年12月11日	明治43年11月27日	明治43年10月31日
大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館
故尾上菊五郎丈が当り狂言『髮結藤次』七幕	二六新報連載『桑の平内一代記』十七場	真砂座当狂言『江戸紫』全六場	旧劇『小笠原騒動』全十五場	実説『ホト、ギス』逗子物語 十場	旧劇『尾張大八』十三場	旧劇『夜討曾我』市川鬼丸・市川鬼三郎 全三場	立志美談『塩原多助一代記』十七場	都新聞所載『小松風』十二場	『禪海物語』板橋在茶店より仇討まで 十三場
『玉藻前』三段目 義太夫出語りにて相勸申候	中内蝶二作 喜劇『二人少将』二場	旧劇『重の井』一幕	喜劇『赤々のてんく』一幕	旧劇『本朝廿四孝』笥堀より勘助物語	二番目『累物語』身売より土橋殺し迄 新内出語り 鶴賀	新派『当りの』全七幕 常磐津所作事『三つ面 万歳』中村歌扇一座出演	新派劇『大晦日』六場 義太夫新内出語	旧劇『お駒才三』白木屋より鈴ヶ森迄	史劇『乱れ笹』剣舞『三決死』『建業』木崎正道先生出演 同門下二少年
其他新着西洋写真真数種御覧に入れ申候	西洋写真 天下一品ライオン使ひの写真 其他最新着写真数種御覧に入れ候	西洋写真 新馬鹿体調自動車、同大砲の巻、ガルト湖絶景、阿爺のステツキ 外新着十数種	西洋写真 新馬鹿大将おせつかいの巻、滑稽蠅とりもち、正劇十年後 外新着数種奉御覧入候	西洋写真 新馬鹿大将ライオンの巻 新馬鹿大将良心の巻 其他新着写真数種	西洋写真 新馬鹿大将喜劇筆一本 悲劇燃る火 外十数種	新馬鹿大将 釣道楽の巻 外十数種	其他最新西洋写真真数種	其他西洋新写真真数種	活動絵瑞書 谷間の姫百合 新馬鹿成功の巻 母思ひ
都 1911/04/01	都 1911/03/14	都 1911/03/02	都 1911/02/16	都 1911/02/01	都 1911/01/15	都 1910/12/28	都 1910/12/10	都 1910/11/27	都 1910/10/31

95	94	93	92	91	90	89	88	87
明治44年7月30日	明治44年7月14日	明治44年6月29日	明治44年6月29日	明治44年6月13日	明治44年5月28日	明治44年5月15日	明治44年4月30日	明治44年4月14日
大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館
都新聞所載「堀のお梅」廿五場	明暦年間大火の由来「振袖火事」全七場	新派劇「女七五郎」全十幕	新派劇「己が罪」十三場	『新血屋敷』（十一場）	麗水氏作 新派劇「乳屋の娘」	旧劇「法界坊」十場 常磐津出語りに御覧入候	大岡政談「村井長庵」十四場（新内出語にて御覧入れ候）	大岡政談「徳川天一坊」八場
義士銘々伝の内「不破数右衛門」三場	新派劇国民新聞連載「紅梅おいろ」十一場	旧劇「蘭平物狂」二場（義太夫人にて御覧入候）	旧劇「蘭平物狂」二場（義太夫人にて御覧入候）	義士伝「赤垣源蔵」塩山玄関より泉岳寺引上迄	旧劇「梅川忠兵衛」封切より新口村迄 義太夫新内出語りにて、御覧に入れ候	該当なし	山崎紫紅氏作 史劇「底倉の湯」二幕（西洋写真）	蓮如上人吉崎御坊「嫁おとし」三場 肉付面の由来
其他西洋写真数種	喜劇 曾我廼家兄弟合作『無言ポンチ』五郎十郎出演 其他西洋写真数種	西洋写真 喜劇蚊いぶし騒ぎ、同新馬鹿大将借金巻の巻、同衛生家、正劇一縷の望	西洋写真 喜劇蚊いぶし騒ぎ、同新馬鹿大将借金巻の巻、同衛生家、正劇一縷の望	東宮殿下御台覧の銚子沖に於ける水難救助の実況 西洋劇 悲劇煙筒掃除熊の皮 正劇勇猛心 悲劇多情多恨 其他数種	西洋劇 正劇自由の翼 同つぼみの愛 学生の悪戯 其他数種	喜劇親の慈悲二場 過般川崎に於ける飛行機と自動車競走 其他西洋写真数種	其他新馬鹿大将地獄極楽巡り 喜劇人の噂 盜棒と犬 正劇強迫状	西洋写真最新発明捕賊器械、喜劇靖子の行衛、悲劇うの動門、其他数種御覧入候
都 1911/07/30	都 1911/07/16	都 1911/07/03	都 1911/06/29	都 1911/06/13	都 1911/05/28	都 1911/05/15	都 1911/04/30	都 1911/04/15

107	106	105	104	103	102	101	100		99	98	97	96
明治44年12月10日	明治44年11月30日	明治44年11月23日	明治44年11月10日	明治44年11月15日	明治44年10月30日	明治44年10月25日	明治44年10月15日	不明	明治44年9月30日	明治44年9月10日	明治44年8月27日	明治44年8月15日
パター館	大勝館	パター館	パター館	大勝館	大勝館	パター館	大勝館	パター館	大勝館	大勝館	大勝館	大勝館
旧劇俠客『国定忠次』全十七場	十六夜清心『鬼あざみ清吉』つゞき九場 新内連中出語	故川上音二郎氏、伊井蓉峰氏出演 史劇『楠木正成』桜井駅 天下一品当館独特の好紀念物なり	都新聞連載中 松田竹嶼先生作『加賀鷹』全十八場	俠客『大前田英五郎』十一場	観世音霊験記『野狐三次』十三場 新内出語り	『蛇の目鯨清蔵』伏見町地藏迄	旧劇『幡随院長兵衛』	『元和三勇士』	実説『鈴木主水』二十一場(新内、義太夫出語)	座出演 義太夫新内出語り)	都新聞所載、渡部黙禰氏作 旧劇『雷六郎』十四場	復讐美談『佐野鹿十郎』つゞき十一場
忠臣講釈『節間宅兵衛』真葛ヶ原上使の場	雪の曙義士伝『大石出立より山鹿送り』(浪花亭桃線件雪右衛門出語)六場	旧劇『桶妻権次』全通しの十七場	死(中幕)『桶狭間合戦』(全四場)今川義元討	義士外伝『新刀正宗』(津田助直)七場(浪花節桃栗軒雪右衛門出演)	雪の曙義士伝『南部坂雪の別』五場(浪花節桃栗軒雪右衛門出演)	『明烏夢の淡雪』浦里時次郎 新内義太夫出語り	雪の曙義士伝『勝田新左衛門』浪花節桃栗軒雪右衛門出演	不明	義士外伝『天川屋儀兵衛』三場 桃栗軒雪右衛門出演	義士銘々伝 神崎与五郎『堪忍袋』つゞき四場(浪花節桃栗軒雪右衛門出語り)	新派劇『花一輪』十幕	曾我廼家兄弟喜劇『命の替玉』五場
清国動乱『革命軍大激戦』Mパター商会萩谷技士が大負傷をなし大冒険撮影 弁士英人ブラツク出演	其他西洋新写真取揃御覽に供し申し候	詩聖ホームー傑作『イリヤットトロイの陥落』出場者二千名、英国人快楽亭ブラツク説明	其他西洋写真如何例沢山入御覽候	其他西洋写真真数種	其他西洋写真真数種	西洋写真 白衣沙門ケリーの水責 外数種	其他西洋写真真数種	不明	其他西洋新写真真数種御覽入候	其他新着奇抜なる西洋写真数種	其他西洋新写真真数種御覽入候	其他西洋新写真真数種
都 1911/12/11	都 1911/12/01	都 1911/11/22	都 1911/11/16	都 1911/11/16	都 1911/11/01	都 1911/11/01	都 1911/10/15	都 1911/10/11	都 1911/09/30	都 1911/09/10	都 1911/09/01	都 1911/08/16

119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	
明治45年2月29日	明治45年2月27日	明治45年2月16日	明治45年2月3日	明治45年2月1日	明治45年1月28日	明治45年1月25日	明治45年1月14日	明治45年1月13日	明治45年1月1日	明治45年1月1日	明治44年12月13日	
大勝館	パター館	パター館	パター館	大勝館	大勝館	パター館	大勝館	パター館	大勝館	パター館	大勝館	
『日蓮上人一代記』(五十三場 映写約三時間)	旧劇『大名五郎蔵』全十五場	松島絶景応用 中村歌扇仙台みやげ 実傳 『原田甲斐』全十五場	漫遊『水戸黄門記』全四十場	史劇『伊達政宗』九場	新派劇『三日月お六』十二場	新派劇『有喜世御殿』全十四場	安政三ツ組盃『羽子板娘』十場 新内連中出語	斬捨御免『明石騒動 尾張伝内』全十七場	やまと新聞所載『浅香三四郎』十場	実説『弁天小僧』全通し十七場	探偵実話『入墨おせん』十二場	
赤穂義士伝『岡野金石衛門』五場 (浪花節雪右衛門出演)	(史劇) 木村長門守『堪忍袋』全五場	旧劇『関取二代鑑』秋津島力士伝(切腹の場)	中村歌扇一座出演『老後の政岡』暇乞の場	雪の曙義士伝『寺坂吉右衛門』十一場 桃葉衛門出演	義士外伝『潮田主水』十一場 桃葉軒雪右衛門出演	増補忠臣蔵『本蔵下屋敷』全二幕	義士外伝 山科閑居『大石三弦破』(三場)(禁無断興行) 桃葉軒雪右衛門出演	一谷嫩軍記『熊谷陣屋』	義士外伝『村上喜剣』七場 桃葉軒雪右衛門出演	旧劇『武松の虎狩』景陽閣の場	雪の曙義士伝『倉橋伝助』六場 (浪花節桃葉軒雪右衛門出演)	
其他新着西洋写真数種	西洋写真 繼母継子 悲劇春霞 イタリ一名所 不調法なる瓦斯工夫 其他数種	西洋写真 曙 ホンペイの 未日 其他数種	西洋写真 春天城壯絶快 絶 其他数種	其他西洋写真数種	西洋写真	鐘 新馬鹿大将白服の巻 英人ブラック説明	西洋写真 弟の手柄 晩真、西洋写真数種	(劍舞) 雲那山那、踏破る、吟士丸谷氏 出場写真、西洋写真数種	西洋写真イリヤツド後日譚 新馬鹿大将樽糺め 其他数種	(其他西洋写真数種)	ナポレオン戦史アルプス 嵐 其他西洋写真数種 弁士英人ブラック説明	其他西洋写真数種
都 1912/02/28	都 1912/02/28	都 1912/02/18	都 1912/02/11	都 1912/02/11	都 1912/01/30	都 1912/01/30	都 1912/01/17	都 1912/01/17	都 1912/01/04	都 1911/12/28	都 1911/12/13	

132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120
明治45年6月9日	明治45年6月7日	明治45年5月26日	明治45年5月25日	明治45年5月15日	明治45年5月12日	明治45年5月1日	明治45年4月27日	明治45年4月18日	明治45年4月13日	明治45年3月31日	明治45年3月24日	明治45年3月12日
大勝館	パテー館	大勝館	パテー館	大勝館	パテー館	大勝館	パテー館	大勝館	パテー館	大勝館	パテー館	パテー館
大岡政談『越後伝吉』十九場 桃中軒薄雲太夫、桃葉軒雪右衛門	慶安太平記『丸橋忠弥』全廿五場 金剛山、由井正雪、金井民五郎会合より忠弥召捕迄	家庭劇『孝女白菊』十八場	実録『鈴木主水』全通し廿五場	勳皇美談『秋田義民伝』十一場	壮絶快絶箱根絶景応用 曲亭馬琴翁 椿節弓張月『鎮西八郎為朝』最大長尺 全五十場	俠客『尾張大八』拾三場 浪花節桃中軒薄雲太夫 桃葉軒雪右衛門 出演	靈狐奇譚『小笠原騒動』全十五場	渡邊猷禪氏作『風流菩薩』二十五場	旧劇『大久保彦左衛門』最大長尺 全四十二場 女浪花節十三歳 京山桃香出語り	やまと新聞連載 旧劇『石川寅次郎』廿三場 新内連中出演	天下一品『真書太閤記』全四十六場 清元出語り 大阪初上り 吉田奈良子出演	旧劇『うづら権兵衛』新内出語り 全十五場
お染久松『野崎村』久作家より堤まで 竹本越寿連中出演	該当なし	義士伝『堀部安兵衛』東下り 三場 浪花節 桃中軒薄雲太夫 桃葉軒雪右衛門出演	新派悲劇『狂美人』全通し廿四場	義士外伝『小山田庄左衛門』七場 浪花節桃中軒薄雲太夫 桃葉軒雪右衛門出演	西洋喜劇『意外』最長尺 ブラック説明	小島孤舟氏作 本郷座当狂言 新派劇『湖畔の家』三場	上野戦争『彰義隊』全七幕十場 黒門墳墓実説 益々大好評少女浪花節 京山桃香長席出語り御聴に逢候	孝子美談『五郎正宗伝』七場 (浪花節出語り) 関西浪界の花 桃中軒薄雲太夫(出演)	西洋名劇『サランボー』東京座文芸活動協会好評	義士外伝『毛利小平太』五場 浪花節出演	該当なし	『義士 村松三太夫』全五場 浪花節 吉田奈良子嬢出演
西洋写真数種	西洋写真『大凶賊デルナード』イタラ会社最近傑作 大長尺 英人ブラツク説明	其他西洋写真数種	其他優秀西洋写真	其他西洋写真数種	益々好評 少女浪花節 京山桃香出演	其他西洋写真数種	其他西洋写真数種	其他西洋写真数種	該当なし	其他西洋新写真数種御覧入候	其他西洋写真 英人ブラツク説明	西洋写真 ブラック説明
都1912/06/09	都1912/06/09	都1912/05/25	都1912/05/25	都1912/05/16	都1912/05/16	都1912/05/01	都1912/05/01	都1912/04/20	都1912/04/20	都1912/03/30	都1912/03/30	都1912/03/16

143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133
大正1年9月1日	大正1年8月21日	大正1年8月18日	大正1年8月11日	大正1年8月11日	明治45年7月14日	明治45年7月13日	明治45年7月1日	明治45年6月30日	明治45年6月21日	明治45年6月19日
大勝館	大勝館	パター館	パター館	大勝館	大勝館	パター館	大勝館	パター館	パター館	大勝館
新派劇『官員小僧』十五場	旧劇『宇都宮釣天井』(十五場) 娘義太夫出演	旧劇『雲霧仁左衛門』義太夫出演 全通し十四場	旧劇『二蓋笠』『柳生又十郎』全通し十八場	実録『清水一角』八場 桃葉軒雪右衛門 桃中軒薄雲太夫出演	旧劇『不動文治』十場 竹本越寿 竹本団京出語	旧劇『尼子十勇士』全通し十八場	実説『白井権八』拾一場 桃中軒薄雲太夫、桃葉軒雪右衛門出演	実物応用活動写真 日本旧劇『義経千本桜』専属俳優出演	新派『水中美人』十二場 桃中軒薄雲太夫、桃葉軒雪右衛門出演	旧劇『松前騒動』全通し廿五場
旧劇『紙治』(竹本越寿出語り)	義士伝『間重次郎』六場 浪花節出演	新派『ピストルお定』壮快無比 全十七場	新派悲劇『結婚』全十五場 西洋悲劇『夕日』最長尺	『壱阪靈験記』澤市内より谷底まで 竹本越寿 竹本団京出演	義士伝『赤垣源藏』塩山邸より引揚まで 桃中軒薄雲太夫 桃葉軒雪右衛門講演	神出鬼没奇賊 新派『稲妻五郎』全二十場	三勝半七『酒屋』一幕 竹本越寿 豊沢団京出語	新派悲劇『月一つ』新派喜劇『生仏』旧劇『小野川喜三郎』	旧劇『義士伝』横川勘平 五場 竹本越寿出演	新派『女金色夜叉』全二十場 (仏国文豪ドオデ作) 西洋写真『アル、の女』第四回文芸活動写真会大好評
差替供覧	余興初御目見え桃中軒歌右衛門 桃中軒薄雲太夫講演 其他西洋写真悉皆差替供覧	其他西洋写真数種	新馬鹿大将喧嘩の巻 懸賞飛行機 其他数種	其他西洋写真数種	其他西洋写真種々尊覧に供し候	西洋写真土人征伐 滑稽 熱い歓迎 実写象の労働 其他優秀写真数種	西洋写真悉く差替供覧	『テ』週報』其他数種	他西洋写真全部差替供覧	西洋写真 地獄岩 其他数種
都1912/09/03	都1912/08/23	都1912/08/23	都1912/08/14	都1912/08/14	都1912/07/17	都1912/07/17	都1912/07/02	都1912/07/02	都1912/06/20	都1912/06/20

148	147	146	145	144
大正1年9月29日	大正1年9月29日	大正1年9月16日	大正1年9月16日	大正1年9月1日
パター館	大勝館	パター館	大勝館	パター館
新派 明治座当り狂言 小島孤舟先生作『夏草もの語』全十場	空前之傑作 桑野桃華氏作『新ジゴマ探偵』九十場 (最長六千尺)	旧劇『日本銀次』生立より仇討まで全十六場	実説『八百屋お七』十二場	旧劇『塚原卜伝』十五場
旧劇敵討『肥後駒下駄』全十五場		新派悲劇『真清水』最長尺 全十場 西洋正劇 恨と恩 着色優美	新派『官員小僧』十五場	旧劇『神田ッ子』十七場
種 日露陸海大戦争 其他数	余興桃中軒歌右衛門、同薄雲大夫講演 其他西洋写真数種あり	西洋喜劇鳴物の石膏 人情劇露の情 其他数種	余興桃中軒歌右衛門、同薄雲大夫講演 竹本越寿出語 其他西洋写真数種	西洋写真『海賊ゴートー』 悲劇恨みの□衣物狂 喜劇自動車強盗 喜劇死
都 1912/09/30	都 1912/09/30	都 1912/09/18	都 1912/09/18	都 1912/09/03